

あとがき

平成 21 年度国際言語文化研究科公開講座「言葉と文化の国際交流」は、10 名の国際言語文化研究科教員を担当者として、6 月 10 日(水)から 7 月 10 日(金)まで名古屋大学東山キャンパス(文系総合館 7 階カンファレンスホール)において実施されました。

公開講座では、「国際交流とは歴史的に見て、文明の接触あるいは文明の移転・移植が行われる経路」であるという前提で、中国語・朝鮮韓国語・ロシア語・英語(米語)・独語・仏語・スペイン語・ポルトガル語の専門家が、それぞれのテーマで講義を実施しました。10 名の講演者とその題目は、次のとおりです。

第 1 回 長畑明利(国際言語文化研究科教員)

エズラ・パウンドの能と漢詩の翻訳とモダニズム

第 2 回 水戸博之(国際言語文化研究科教員)

ラファエル・ブリュトー編ポルトガル語・ラテン語辞典に見出される 18 世紀前半のヨーロッパにおける日本

第 3 回 鶴巻泉子(国際言語文化研究科准教授)

地域文化からグローバルな文化へ? ブレイス語の変容をめぐって

第 4 回 星野幸代(国際言語文化研究科准教授)

台湾映画のなかの日本 08『海角七号』を中心に

第 5 回 楊曉文(国際言語文化研究科准教授)

中国と日本 『源氏物語』の漢訳を中心に、日中間の言葉と文化の国際交流を考える

第 6 回 吉村正和(国際言語文化研究科教員)

言葉の翻訳と文化の翻訳を超えて

第 7 回 柳沢民雄(国際言語文化研究科教員)

未知なる言語との邂逅

第 8 回 鄭芝淑(国際言語文化研究科助教)

ことわざで見る日本と韓国

第 9 回 大庭正春(国際言語文化研究科教員)

ドイツ近代演劇の改革と歌舞伎

第 10 回 尾関修治(国際言語文化研究科教員)

外国語教育とインターネット

2010 年 3 月 名古屋にて 吉村正和